

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年7月15日(金)発行 第 16 号 発行責任者:高橋 弘悦

充実した活動ができました

尾瀬・檜枝岐自然環境学習

12日から1泊2日の日程で檜枝岐村がコーディネートして下さる自然環境学習に参加してきました。この事業は、檜枝岐村が、尾瀬での環境学習により、「将来日本を担う多く子どもたちに尾瀬のすばらしさ、貴重さを体験していただくこと」をねらいとして行っているもので、村の活性化の意味もあります。



檜枝岐の環境学習は2つのステージが用意されており、一つは尾瀬にて自然と人との在り方を学び、二つ目は、檜枝岐の歴史や文化を、見て、聞いて、触れて、実際に体験し五感を通じて学んというものでした。

自然保護の最先端の取り組みを学ぶ

ガイドさんの詳しい説明を聞きながら、沼山峠から尾瀬沼まで歩きます。普段なら雑草としか見えないような植物でも、尾瀬特有のものがあることを学ぶことができました。野鳥の声もとても爽やか。ほとんどのコースが木道の上を歩くものではありませんでしたが、これは、歩きやすさを求めたものではなく、踏み固められて自然環境が変わってしまうことを防ぐものです。靴の裏についた種を落とす仕組みもあります。



天候にも恵まれ、この季節にしか見られないニッコウキスゲの群生も見ることができました。

う～む…檜枝岐も捨てがたい

2日目の13日には、檜枝岐村巡りを行いました。こちらにもガイドさんがついてくださり、村の歴史も含めた解説をしてくださいました。

尾瀬への通り道であることから、通り過ぎてしまうことが多い檜枝岐村ですが、同じ会津でも文化の違いを感じることができ、生徒も興味深く解説に聞き入っていました。この雰囲気の違いは、農業を主とするか林業・狩猟を主とする生活の違いなのか、会津藩領と天領の違いなのか…。檜枝岐の文化もまた奥深いと感じました。

六地藏

道端にたたずむ六体の石像。山深い里のため、昔から冷害になやまされ、とくに凶作の年には餓死者もでるほどでした。ゆえに、働けぬ赤ん坊が「まびき」されるという悲惨な行為もありました。この稚児像は、口べらしにされた赤ん坊を供養するものといわれています。



橋場のばんば

鎮守神へとつづく参道中程に鎮座するばんばの石仏は、子どもを水難から守ってくれる水神様です。最近では縁結び、縁切りの神様として信仰され、悪縁を切りたいときは、新しいハサミを。良縁で末永く結ばれたいときは、はさみを針金でぐるぐる巻きにしたものを奉納します。



檜枝岐の舞台

檜枝岐の歌舞伎は元来鎮守神の祭礼に歌舞伎を奉納するという形で上演され、村民もこれを楽しむというものでありました。したがって建物は神社に向かって建てられ、拝殿のような形態をとっています。



《後書き》

今回の学校だよりは、旅行記のようになってしまいました。ご容赦ください。ただ、環境保護技術の発信地としての尾瀬、村の歴史と文化を掘り起こし、積極的に発信しようとする檜枝岐村の取り組みを知ることができ、子どもたちには大変有意義な活動になったことをご報告いたします。

行事は「その日だけ…」きちんとやろうとしても日常が出てしまいます。この日の西山中生は、楽しむべきところは思いっきり楽しみ、学ぶべき時はしっかり学ぶというメリハリのきいた行動をとることができました。日頃から、自覚を持って生活してきた成果だと思っています。今年度初めて企画した行事でしたが、中身の濃い、得るものが多い行事となりました。

